



みんなの居場所

M I N N A N O I B A S Y O



こどもは権利の主体です!!

理事長: 江頭晶子

今年の夏は一段と暑い夏でした。皆様お元気にお過ごしのことと存じます。「みんなの居場所」は今年8月で4年目に入りました。

今夏の「みんなの居場所」は、来所のこども達が昨年の倍に増え、日々てんこ盛りでしたが、事故もなく賑やかに過ごしました。

さて、昨年施行された糸島市子どもの権利条例の第2章は「ひとりの人間としての大切なこどもの権利」が規定されています。(第3条～第8条)

こどもたちの声からうまれた第6条「休み、自由に過ごすことができ豊かに育つ権利」は3つ規定があります。

こどもは成長、発達していく過程で様々な権利が守られなければなりません。

条例はこどもたちが成長、発達していく上で、大きな権利の保障となるでしょう。

また、2024年糸島市子ども計画策定におけるニーズ調査で「生きているのが嫌になる」と答えたこどもが4割近くにのぼっていたそうです。嫌になる事とはどんなことなのだろうかと考えてしまいました。みんなの居場所ではこどもたちを見守りながら、こどもの声を聞き、こどもの「やってみたい」を応援したいと思っています。



多様な居場所づくりを学ぶ会 第2回

11月23日(日) 2025年度第2回

「市民がつくった学校の軌跡と教育の可能性」

箕面こどもの森学園 (現コクレオの森) 初代学園長 辻正矩氏講演会

@前原コミュニティセンター 大ホール

体験活動等(こどもの未来応援国民運動基金)

10月7日(火) 外で遊ぼう! まるみとであそぼう! at まるみと (1月20日(火)にも開催予定)

10月9日(木) 第2回音楽あそび『ブンネであそぼう!』@ 前原南コミュニティセンター

11月11日(火)、2月10日(火) MUKAであそぼう & 乗馬体験・ポニーギンガさんとのふれあい(予定)

他、こどもたちの要望により、ハロウィン・クリスマスパーティー、餅つき(餅丸め)など

こどもの育ちを考える学習会

来年6月ごろ 2026年度第1回

「一人ひとりに合った学びとその環境づくり～合理的調整とは?」

NPO法人ゆめふうせん理事長 平岡亜美氏講演会

来年8月ごろ(予定) 2026年度第2回

「養育とは? マルトリートメントと脳への影響について」

福岡市南部療育センター診療所長・小児科医 八坂知美氏講演会

※いづれも詳細は決まり次第HPにてご案内いたします

▽詳細はHPから



会員・寄付を募集しています

皆様のご支援で運営ができています。ご協力どうぞよろしくお願いします。

※みんなの居場所の利用にあたって、入会の必要はありません

御寄付 浄土真宗本願寺派怡土組の各お寺様より
Will Forward Consulting様より(ボードゲームなど)

ありがとうございました!

年会費	会員(個人・団体)	5,000円
	賛助会員(個人・団体)	2,000円
寄付	1口(個人・団体)	5,000円

振込先 01750-4-135011
(郵便口座)

特定非営利活動法人 いとしま児童クラブ

☎ 092-332-0112

〒819-1128 福岡県糸島市篠原東一丁目23番32号

✉ itosima.jidou.c@gmail.com

こどもの育ちを 考える学習会 第2回

2025年度「こどもの育ちを考える学習会」
第2回153名参加(8月17日)

活動報告

詳細はこちら



映画「みんなの学校」上映会&木村泰子氏講演会
「『ふつうの子』なんてどこにもいない〜いつもいっしょが当たり前〜」

大空小学校では保護者や地域住民が「サポーター」として学校運営を支えています。20年間、地域全体で全ての子どもに居場所のある学校づくりにとりくまれている学校です。木村先生は大空小の初代校長です。大空小学校で養われる「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」の4つの力について、そして、それらは一旦しっかり身についたら、その後の生活の中で更にアップデートされていく、ということをも、生徒の卒業後の後日談を多数ご紹介されながら、お話しくださいました。

その後日談から、「やっぱりこどもは大人の背中を見て大人になる。やってもらったことはやって返す」「大人が自分を大事に生きているか、何でも人のせいにしたり悪口を言ったり文句ばかり言ったりしていないか、こどもは見ています」と言われた言葉には、重みがありました。

又、「不登校、という言葉は失礼」「不登校をその子の問題にして片づけてしまう学校があれば残念過ぎる。」「すべてのこどもの学ぶ権利を保障する、無理しなくてもありのままで学ぶ居場所があることが不可欠」「いじめ、不登校、自殺、これを0にするのが大人がここにいる意味」など、非常に強いメッセージが届けられました。

そして、こどもが安心して学んでいたら、勝手に学力がつくということ。自分と違う他者と一緒に、一緒に空間で一緒に生きているっていうのは、もうどんな言葉にも代えられない安心感を持つ、そうす

ると、勝手にこどもたちの学力は上がる、ということ。

見えない学力、人を大切にして、自分の考え持つて、自分なりに表現して、チャレンジする。この力はこどもは誰でもゲットできる。そして、**自分と違う友達がいっしょに居なければ、この4つの力をつけることができない、ともに育ち合うことでこどもたちは安心でき、力をつけていくことができるのです。**

保護者はサポーターとして、先生はつなぎ役として、人と人をつなぐコーディネーターを地域にいっぱい作る～すべての人が当事者になって、人のせいにせず、「大人のチーム力」で子どもを育む。そんな関係性づくりが重要とも。糸島の地域で、すべてのこどもたちが無理せずにあるのままで学べる「みんなの学校」を、糸島のみなが風呂敷を広げてつなぎ合わせていってつくろう、未来はつくれる、**学びの目的は、その子がその子らしく自分をアップデートしていくこと！**と締めくくられました。「感動した」「身の回りできるところから実践していきたい」という声が多数寄せられていました。

講師のお時間を延長してまでの熱いご講演に心から感謝いたします。お忙しい中、ご来場くださった皆さま、本当にありがとうございました！



『発達障害』という言葉はよく聞けれど 言葉にふりまわされないために

講師：九州大学准教授 「みなも」「うみのね」運営 佐々木玲仁氏
九州ろうきんNPO助成事業

2025.3.16
こどもの育ちを考える学習会
2024年度第3回のご報告
参加43名（座談会30名）



『発達障害』という言葉があふれる中で、「診断」って何のことなのか？「人」を指すのか、「症状」を指すのか、「特定の行動」のことなのか？外との関係(社会性)の中で、こだわり・常道行動に見えるものを障害特性ではなく対処法として理解するとても合理性があること。「行動」は外から見たもので、本人からしたら「体験」。

診断はあくまで「援助の入口」であって、必ずしも診断がなくても支援は可能であること。レッテル貼りではなく個人の「体験」を聴くことの重要性が強調されました。不安や緊張、見えない孤独といっ

た内面を理解すること、そして“一人ひとりに合った支え”を試行錯誤でつくっていくことが大事。さらに「感覚の世界」を「意味の世界」につないでいっているのが「芸術」では、というお話や、現代社会で求められる社会性に「配慮」や「協調性」は求められるけど、「公共性」が入っていない、という捉え方も新たな視点として共有されました。

参加者からは「とてもなるほどと思われる学びがあった」「言葉に頼りすぎていた自分に気づいた」といった声があり、発達障害という言葉についての意味を問い直し、再考する機会になりました。

「どうして学校行かなきゃいけないの？」と聞かれたら

九州ろうきんNPO助成事業

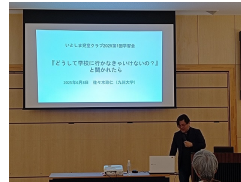
2025.3.16
こどもの育ちを考える学習会
2024年度第3回のご報告
参加47名



学校に行かないと学力が遅れるのでは？進学は大丈夫？友だち関係はどうなる？—そんな不安の一つひとつ丁寧に問い直していただきました。

先生からは、強制されての学びよりも、自発的に学ぶほうが身につくこと、出席日数にとらわれない進学制度があることなど、多くの視点をいただきました。また、学校以外にも人と出会う場はあること、ギャップレイヤーやオンライン学習など多様な選択肢が広がっていることも知ることができました。

参加者からは「安心した」「常識に縛られていたことに気づいた」という声が多く寄せられました。ことごとく何より大切なのは、安心できる環境と強制されない空間だと、改めて感じられる時間となりました。



こども当事者研究会



e-ラーニング



まるいとであそぼう



Dr.キーダの科学教室



ヤドンとからだあそび



お料理教室
by JA糸島女性部



ブンネ音楽会



パーカッション楽団



MUKAさん(ギンガさんとふれあう)